

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 「目に見えないもの」

鍼灸師になって"人から感謝される仕事で羨ましい"と言われたことがある。たしかに、体の不調を取り除くことができ、痛みを和らげることができたとき、直接"ありがとう"の言葉をもらう。その瞬間は本当に嬉しい。ただ、"仕事"っていうのは必ず誰かに感謝されとる。必要とされるから"仕事"として成り立って、ありがとうの対価としてお金が生まれる。直接的か間接的か、目に見えるか見えんかの違いはあれど、みんな感謝されとる。

そして、目の前のひとりが喜んでくれたとき、その人を大切に思う周りの人も喜んでくれることに気づいた。ひとりにしか与えることができてない、って思っても、目に見えんところで誰かに繋がって、誰かに届いとることもある。目に見えんことをリアルに捉えるのは難しいけど、想像力を働かせると自分の世界が広く深くなる。誰もが誰かを幸せにして、誰もが誰かに幸せをもらっとる。綺麗事みたいやけど、実際はそうやって世界は回っとる。

あたしにできんことを誰かにお願いして、誰かが苦手なことをあたしがやって、そうやって回っとる。生きとる、ってそういうこと。最初の"~羨ましい"って言われて、そんなことを考えよったよ。

(テノヒラkiku)

あいなん逸品図鑑 その⑨

逸品 図鑑 「ブロッコリー」

生産者 ^{よしかず} 埜下 吉和さん(御荘平城)



愛媛CATV
の動画はこちら
から



▲ブロッコリー栽培を初めて5年目になる埜下吉和さん。父とともに栽培に取り組んでいます。

父とともにブロッコリー栽培に取り組んでいる埜下吉和さん。「まったくの素人から始めた」と言いますが、栽培5年目を迎え、手付きは慣れたものです。「今年は収量が揃い、きれいにできている」と話し、ブロッコリーの出来栄えに自信をのぞかせます。

春ブロッコリーの植え付けは12月頃に開始し、1月から6月頃まで収穫を続けます。埜下さんが特にこだわっているのは土づくり。「水に弱い作物なので排水性を上げることが重要。それができたらきれいに育つ」と説明します。

ブロッコリーは甘みがあり、野菜が苦手な人にも食べやすいと言います。「天ぷらにしたり、茎をかき揚げにするのがおすすめ」と埜下さん。今後の目標については、「生産の規模を拡大したい。機械を導入して、より土づくりにもこだわりたい」と意気込みました。



▲出荷時の大きさは10~12センチほど。今年は鳥の被害も少なく、きれいにできていると言います。